

関東支部:オンライン講演会「県の石 神奈川県」(2022/3/5 開催予定)

講演要旨

### 『鉱物少年が発見した新鉱物「湯河原沸石」』

神奈川県立生命の星・地球博物館館長 平田大二

神奈川県の県の石の「鉱物」に選ばれた湯河原沸石 (Yugawaralite) は、アマチュア鉱物学者であった故櫻井欽一博士 (1912~1993) が、旧制中学生のころに神奈川県湯河原町不動瀧で発見したものです。発見から約 20 年の時を経て、櫻井氏らが新鉱物として発見地の名前を付けて記載、報告しました。講演では、湯河原沸石と櫻井欽一博士について、そして神奈川県立生命の星・地球博物館とのつながりについてお話しします。

### 『丹沢の谷にサンゴの化石』

神奈川県立生命の星・地球博物館外来研究員 門田真人

丹沢・大山国立公園は神奈川県北西部にある中級山岳自然公園です。分布する丹沢層群には中新統の海成火砕岩類が厚く堆積しています。その中部層には石灰岩体がレンズ状に挟在しています。10 地区 30 露頭を確認し、それらの石灰岩から造礁性サンゴ類、底生有孔虫類、オウムガイ類、石灰藻類の化石を採集しました。化石は中期中新世、熱帯海洋性気候下の浅海域環境を示しています。石灰岩体中の礫や周囲の岩相から、火山島周辺に発達したサンゴ礁が石灰岩の起源で、「南から来た丹沢」の証拠の一つです。

### 『神奈川県の岩石「トータル岩」から読み解くダイナミックな島弧衝突の履歴』

国立科学博物館・地学研究部 谷 健一郎

神奈川県北西部の丹沢山地に分布する深成岩体はトータル岩と呼ばれる特殊な花崗岩で出来ています。この岩石の様々な化学分析から、丹沢山地は本州弧と伊豆小笠原弧の衝突によるダイナミックなマグマ活動によって形成されたことが判明しました。このような島弧衝突に伴う花崗岩質マグマの形成は地球史における花崗岩質大陸地殻の形成・発達過程を理解する上でも重要と考えられています。